

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：松井 菜摘

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	乳幼児を持つ父母のしつけの認識と実際、高齢初産婦の妊娠期・育児期における体験
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 研修等での学びを生かして、授業や実習内容を工夫し、またその振り返りを行うことで改善へとつなげる	2017年4月～現在に至る	就任1年目から、学内での新任教員研修やFD研修、実習先でのウォーミングアップ研修、また全国保健師教育機関協議会における公衆衛生看護学を教授する教員＜レベルⅠ＞研修等を受講し、自身の教育の質を向上させるため教育能力の向上に努めている。 また、学生の学習状況をもとに、授業や実習内容の改善に向け、同一科目を担当する教員で会議を持ち、指導方法の検討を行っている。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 学部生による高齢者継続家庭訪問ボランティア活動の支援	2018年1月～現在に至る	看護学部の学部生のうち、ボランティア活動を希望する学生に対する活動の支援を行っている。対象となる高齢者1人につき学生3～4人を1グループとし、家庭訪問1回につき学生2人ずつのローテーションを組み、月1～2回の家庭訪問を実施する。 その中で、対象となる参加学生の募集および学生へのオリエンテーションの実施、高齢者への活動内容の説明と初回訪問日時の調整、初回訪問時の同行、地域包括支援センターとの連携、また2回目の家庭訪問以降の学生のサポートを行っている。
2. 地理情報システムの活用トレーニング入門編修了	2017年9月22日	財団法人地理情報システム学会GIS資格認定協会主催の教育認定を受けたArc GIS for Desktop I 入門編（コース番号：ET01、教育時間数：13時間）の受講を修了した。武庫川女子大学大学院看護学研究科の公衆衛生看護学演習ⅡではGISを用いた地域診断を実践している。学生への操作指導に加え、データを可視化することで、分かりやすく広く住民に伝えられることを教授するために役立っている。
3. 地理情報システムの活用トレーニング基礎編修了	2017年10月20日	財団法人地理情報システム学会GIS資格認定協会主催の教育認定を受けたArc GIS for Desktop II 基礎編（コース番号：ET02、教育時間数：19.5時間）の受講を修了した。 武庫川女子大学大学院看護学研究科の公衆衛生看護学演習ⅡではGISを用いた地域診断を実践している。学生への操作指導に加え、データを可視化することで、分かりやすく広く住民に伝えられることを教授するために役立っている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 看護師免許	2009年5月～現在に至る	
2. 保健師免許	2009年5月～現在に至る	
3. 精神保健福祉士資格	2009年4月～現在に至る	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 全国保健師教育機関協議会 教育体制委員会 委員	2019年6月～現在に至る	全国保健師教育機関協議会教育体制委員会の委員として、保健師教育課程選択制の効果と課題を明確にし、看護師教育課程に上乘せる活動を推進するとともに保健師教育課程の質を保証する評価基準について検討し、会員校の教育体制の整備を後押しするための活動を行っている。
2. 西宮交流フェスティバルでの健康相談	2019年3月	西宮交流フェスティバルにおいて、健康相談コーナーの担当として携わった。
3. 西宮市民健康フォーラム 骨健康度測定担当	2018年6月	西宮市民健康フォーラムにおいて、骨健康度測定担当と

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. 兵庫県平成30年度保健師現任教育計画作成及びプリセプター研修会 ファシリテーター	2018年6月、2019年6月	して携わった。 兵庫県平成30年度保健師現任教育計画作成及びプリセプター研修会において、ファシリテーターを担当した。
5. 寝屋川市保健師人材育成事業 オブザーバー	2018年5月～現在に至る	寝屋川市保健師人材育成事業のオブザーバーとして、ワーキングや研修会などに参加し、人材育成マニュアル作成のためのキャリアラダーの検討や現場の保健師が参加する研修会におけるグループワークの実施に携わっている。
6. 日本看護研究学会第31 回近畿・北陸地方会学術集会 実行委員	2018年3月	日本看護研究学会第31 回近畿・北陸地方会学術集会において、実行委員として学会運営に携わった。
7. サンケイリビング新聞社主催 「ミセスの1 日大学生」	2018年3月	サンケイリビング新聞社主催 「ミセスの1 日大学生」において、運営担当として事前準備から当日の進行までの全体に携わった。
8. 第6 回日本公衆衛生看護学会 実行委員	2018年1月	第6 回日本公衆衛生看護学会において、実行委員として学会運営に携わった。
9. 兵庫県西宮市 秋の公聴会	2017年11月	兵庫県西宮市が市民を対象に行った秋の公聴会において、ファシリテーターとして当日の進行に携わった。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 幼児後期の子どもを持つ両親における養育スタイルとしつけ（修士論文）	単	2011年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象に質問紙調査を行い、両親の養育態度やしつけへの関わりの実態と関連、またそれらに影響を与える背景要因について分析した。子どもの数やその年齢、母の養育態度により父の育児参加が異なること、親自身の被養育体験が現在のしつけに影響を与えること、さらに父母の育児に対する考え方や行動はお互いに影響を及ぼしあっている可能性が示唆された。
3 学術論文				
1. 幼児後期の子どもを持つ父母におけるしつけへの実際の関わり（査読付き）	共	2012年3月	第42回日本看護学会論文集 地域看護、P.96-99	幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する実際の関わりと、その属性および相談状況による違いを明らかにするため、地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象として質問紙調査を行った。しつけへの実際の関わりは「決まりを守ること」「人と関わること」「規則正しく生活すること」「学ぶこと」の4因子構成が妥当であり、父のしつけへの実際の関わりには子どもの年齢が、母のしつけへの実際の関わりには母の年齢、就業の有無および子どもの年齢が関連していることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および論文作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、加藤多樹郎、藤原千恵子
2. 小児の入院と母親の付き添いがきょうだいにおよぼす影響～きょうだいの情緒と行動の問題の程度と前向きな変化・成長の関係～（査読付き）	共	2010年3月	第40回日本看護学会論文集 小児看護、P.87-89	母親の属性および小児の入院と母親の付き添いによって生じるきょうだいの情緒・行動の問題の程度と、前向きな変化・成長の関係を明らかにすることを目的として、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。母親の年齢や不安の程度、きょうだいの年齢や性別に配慮したきょうだい支援の必要性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共著者名：倉橋理香、新家一輝、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子
3. 病棟の違いによる入院児のきょうだい支援に対する看護師の認識と実践の差異（査読付き）	共	2010年3月	第40回日本看護学会論文集 小児看護、P.93-95	小児が入院する病棟に勤務する看護師を対象に、病棟により入院児のきょうだい支援に対する認識と実践に差異があるかを分析した。きょうだい支援に関する情報収集や働きかけは小児病棟と混合病棟のどちらでも高く認識して実践されていること、院内規則や設備によってきょうだい支援の違いが生じる可能性があることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共著者名：武内紗千、河上智香、新家一輝、倉橋理香、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、石井京子、藤原千恵子
その他				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 継続して家庭訪問に関わる意味を重視した修士課程での実習 1報：乳児・高齢者への継続家庭訪問実習の概要	共	2019年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	<p>本学大学院看護学研究保健師コースで実施している、2年間の実習の全体像と1年次の継続家庭訪問実習の実際について報告することを目的とした。家庭訪問を重視し、理論と看護技術に裏付けられた経験を重ねること、継続した関わりを持つことにより家庭訪問の重要性やアウトリーチでないと思えない層への支援について考えることにつながると考える。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：和泉 京子、岩佐 真也、松井 菜摘</p>
2. 継続して家庭訪問に関わる意味を重視した修士課程での実習 2報：1年間の乳児継続家庭訪問実習の振り返り	共	2019年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	<p>乳児継続家庭訪問での学生の気づき、学びのプロセスと家庭訪問を受けた対象者の思いを明らかにし、継続した家庭訪問実習を展開することの意義を検討することを目的とした。</p> <p>学生は戸惑いながらも対象者を理解しようと努め、児の成長発達を的確に把握し、どのような言葉を用いて母親とコミュニケーションをとるべきかを試行錯誤していた。自分の発言や行動に自信が持てず、実習指導者などから助言を受けながら訪問を展開していたことが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、松井 菜摘、和泉 京子</p>
3. 継続して家庭訪問に関わる意味を重視した修士課程での実習 3報：1年間の高齢者継続家庭訪問実習の振り返り	共	2019年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	<p>高齢者継続家庭訪問での学生の気づき、学びのプロセスと家庭訪問を受けた対象者の思いを明らかにし、継続した家庭訪問実習を展開することの意義を検討することを目的とした。</p> <p>学生は、実習の初めには、対象者の話を「聞く」ことにより思いを理解しようと努めていた。しかし、家庭訪問を重ねていく経過の中で、実習指導者の助言やカンファレンスなどでの他学生の発言により、様々なコミュニケーションスキルを用いて、対象者の話を「聴く」ことができるようになり、それが信頼関係の構築につながるということを実感していることが明らかとなった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：松井 菜摘、岩佐 真也、和泉 京子</p>
4. Home visit to determine the health status of low-income individuals who had not undergone medical checkup and treatment, and assessment of the effect in Japan	共	2019年6月	ICN Congress 2019	<p>低所得、未受療、健診未受診の者への保健師による健康づくり支援の家庭訪問を行い、健康と生活の実態把握と家庭訪問後の健診受診、受療状況を評価することを目的に研究を行った。</p> <p>訪問での支援により必要な受療、特に生活習慣病関連疾患の受療につながることで、重症化・合併症予防、ひいては要介護状態の予防に寄与することが示唆された。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：松井 菜摘、和泉 京子、岩佐 真也</p>
5. 家族介護者の健康状態と生活習慣病予防の健康行動	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会（高知）	<p>隠れた患者（the hidden patients）と言われる家族介護者の健康状態と生活習慣病予防の健康行動を明らかにし、家族介護者への生活習慣病予防に向けた支援のあり方を検討することを目的に研究を行った。</p> <p>家族介護者には健診受診や生活習慣病の必要な治療を受けていない者、うつ傾向、閉じこもり傾向などの者などが少なく、気づくことが明らかになった。多くの時間を介護に費やし、自らの健康に目を向ける余裕がないことが推測される。また、世帯所得や介護時間により違いがみられることより、家族介護者の経済状況や介護の状況をふまえた支援が必要であると考えられる。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：和泉 京子、尾久 聖子、松井 菜摘、岩佐 真也、田野 晴子</p>
6. 市町村保健師の健康の社会格差の視点を 包含した健康指標の「見える化」の現状	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会（高知）	<p>市町村や特別区の保健師の、所得や地域など社会背景ごとの健康指標の整理・活用の実態、また、それらと保健師経験年数との関連を明らかにすることを目的として研究を行った。</p> <p>既存データは活用できているが、健康の社会格差の視点を包含した健康指標の「見える化」のためのデータ整理やその活用ができていない者は著しく少なく、それらは経験年数により違いがあることが明らかとなった。</p> <p>本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 40歳以上で初めて出産した産婦の妊娠期における心情	共	2019年10月	第78回日本公衆衛生学会総会（高知）	不可能 共同発表者：岩佐 真也、和泉 京子、松井 菜摘 40歳以上で初めて出産した産婦の妊娠期における心情を明らかにすることを目的として研究を行った。40歳以上で初めて出産した産婦は妊娠期において、妊娠への喜びと期待、周囲への感謝を持ち、同時に妊娠による身体的および精神的な負担と妊娠や出産に関する不安や葛藤を抱えながら過ごしていることが明らかになった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者名：松井 菜摘、和泉 京子、岩佐 真也
8. PUBLIC HEALTH NURSES' UNDERSTANDING OF HEALTH DISPARITIES: RESULTS OF A COMPLETE ENUMERATION OF MUNICIPAL PUBLIC HEALTH NURSES IN JAPAN	共	2019年1月	22st EAFONS & 11th INC (22st East Asian Forum of Nursing Scholars & 12th International Nursing Conference)	社会的弱者が多い地域で活動する保健師の社会的弱者に対する健康格差を取り巻く現状に対する認識を明らかにするため、研究を行った。 健康における社会格差を認識した上で保健活動を行うためには、保健師の健康格差に対する理解を促進することが重要であることが明らかとなった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、和泉 京子、松井 菜摘
9. 特定健診5 年未受診低所得者への家庭訪問での健康支援の評価－3 報医療費の状況－	共	2018年10月	第77 回日本公衆衛生学会総会（福島）	特定健診未受診で医療機関未受療の者への健康づくり支援の家庭訪問を、特定健診受診状況により評価し、健診未受診者への支援の在り方を検討することを目的に研究を行った。 家庭訪問による健康づくり支援を行うことで、受診を勧奨することができ、受療による一時的な医療費の増加は見られるが、生涯にかかる医療費を削減させることができる可能性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：和泉 京子、田平 昌代、舟本 美果、岩佐 真也、松井 菜摘
10. 特定健診5 年未受診低所得者への家庭訪問での健康支援の評価－2 報医療機関受診状況－	共	2018年10月	第77 回日本公衆衛生学会総会（福島）	特定健診未受診で医療機関未受療の者への健康づくり支援の家庭訪問を、特定健診受診状況により評価し、健診未受診者への支援の在り方を検討することを目的に研究を行った。 過去1年間またはそれ以上の未受療者の中には、生活習慣病の重症化予防のためすぐに受療する必要がある者が見受けられ、家庭訪問による健康づくり支援を行った者の方が生活習慣病関連疾患の受療につながったものの割合が高かったという結果が得られた。より早期に家庭訪問による支援を行い、必要な受療につなげることにより、重症化・合併症予防、ひいては要介護状態の予防に寄与することが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：舟本 美果、田平 昌代、和泉 京子、岩佐 真也、松井 菜摘
11. 特定健診5 年未受診低所得者への家庭訪問での健康支援の評価－1 報特定健診受診状況－	共	2018年10月	第77 回日本公衆衛生学会総会（福島）	特定健診未受診で医療機関未受療の者への健康づくり支援の家庭訪問を、特定健診受診状況により評価し、健診未受診者への支援の在り方を検討することを目的に研究を行った。 家庭訪問により健康づくり支援を行った者の方がその後の特定健診受診率が有意に高く、また家庭訪問を実施して特定健診の受診につながった者には、有所見者が多かったという結果が得られた。通常の支援では特定健診の受診に結びつかない長期の未受診者への支援としてアウトリーチである家庭訪問の有効性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：田平 昌代、舟本 美果、和泉 京子、岩佐 真也、松井 菜摘
12. 社会的弱者に対する保健師の健康認識と健康の社会格差の視点を包含した保健師活動	共	2018年10月	第77 回日本公衆衛生学会総会（福島）	社会的弱者が多い市町村で活動している保健師の社会的弱者に対する健康認識と活動実態を明らかにすることを目的に研究を行った。 健康の社会格差の視点を包含した保健活動の一つとして、特に社会的弱者においては健康の社会格差が生じやすいということを意識しながら日頃の活動を行うことであることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、本村 純、神原 咲子、海原 律子、和泉 京子、松井 菜摘
13. Home visits for determining health status of low-income individuals who have not undergone		2018年1月	21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International	低所得で健診未受診で医療機関未受療の者の健康の実態をアウトリーチ活動である保健師の家庭訪問により明らかにすることを目的に研究を行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
medical checkups or treatment			Nursing Conferences (Seoul)	特に、経済的ゆとりのない者に対して、早期治療により治療費が少なくなることや安価なジェネリック薬を選択できることなどを伝え、健康づくりの支援を行っていく必要性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：Kyoko Izumi, Maya Iwasa, Ritsuko Kaibara, Natsumi Matsui
14. Matters important to and difficult for public health nurses working in areas with large numbers of socially vulnerable individuals	共	2018年1月	21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences (Seoul)	社会的弱者が多い地域で活動する保健師の社会的弱者に対する健康認識と活動実態を明らかにするため、研究を行った。 健康問題の多様化と健康格差の拡大に伴い、P保健師は対象者の思いや言葉、そして家族全体を支援することを重要と考えていることが分かった。また、虐待事例や訪問を拒否する事例への対応に難しさを感じており、他機関との連携の必要性が示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：Maya Iwasa, Jun Motomura, Sakiko Kanbara, Ritsuko Kaibara, Kyoko Izumi, Natsumi Matsui
15. 社会的弱者の健康格差についての保健師の認識	共	2018年1月	第6回日本公衆衛生看護学会（大阪）	社会的弱者が多い地域で活動している保健師の健康格差に関する認識の特徴を明らかにすることを目的に研究を行った。 健康格差に対する特徴的な認識として、社会的弱者は健康への意識が低いと捉えており、日々の活動を通し、食事状況の悪さや行動変容を促すことの難しさを感じながらも、関係機関とともに関わり、社会的弱者とつながることを大切にしていることが明らかとなった。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：岩佐 真也、本村 純、神原 咲子、海原 律子、和泉 京子、松井 菜摘
16. 幼児後期の子どもを持つ父母における養育態度とその要因		2012年3月	第27回日本看護研究学会近畿地方会学術集会（大阪）	地域で生活する幼児後期の子どもを持つ父母の養育態度と、その属性や相談による違いを明らかにすることを目的に、父母の養育態度の組み合わせを4つに分類し、背景要因による関連を分析した。子どもの数や夫婦間の相談、祖父母の同居等が父母の養育態度に影響を及ぼしている可能性があると考えられる。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および抄録作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、藤原千恵子
17. 幼児後期の子どもを持つ親におけるしつけへの実際の関わり		2011年8月	第42回日本看護学会地域看護（高松）	幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する実際の関わりと、その属性および相談状況による違いを明らかにするため、地域で生活する幼児後期の子どもを持つ親を対象として質問紙調査を行った。しつけへの実際の関わりは「決まりを守ること」「人と関わること」「規則正しく生活すること」「学ぶこと」の4因子構成が妥当であり、父のしつけへの実際の関わりには子どもの年齢が、母のしつけへの実際の関わりには母の年齢、就業の有無および子どもの年齢が関連していることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能（アンケート回収後の分析および抄録作成） 共同発表者：山本（松井）菜摘、加藤多樹郎、藤原千恵子
18. 入院児のきょうだいの人格的成長尺度の作成		2009年9月	第16回日本家族看護学会（高山）	小児の入院と母親の付き添いにより生じる、入院児のきょうだいの肯定的な変化の程度を測定している尺度を作成することを目的に、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。愛他的行動因子、情緒・社会的スキルの発達因子、セルフコントロール因子の3因子から成る「入院児のきょうだいの人格的成長尺度」の有用性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能 共同発表者：新家一輝、藤原千恵子、石井京子、河上智香、泉美香、山田晃子、倉橋理香、武内紗千、山本（松井）菜摘
19. 病棟の違いによる入院児のきょうだい支援に対する看護師の認識と実践の差異		2009年9月	第40回日本看護学会小児看護（高知）	小児が入院する病棟に勤務する看護師を対象に、病棟により入院児のきょうだい支援に対する認識と実践に差異があるかを分析した。きょうだい支援に関する情報収集や働きかけは小児病棟と混合病棟のどちらでも高く認識して実践されていること、院内規則や設備によってきょうだい支援の違いが生じる可能性があることが示唆された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
20. 小児の入院と母親の付き添いがきょうだいにおよぼす影響～きょうだいの情緒と行動の問題の程度と前向きな変化・成長の関係～		2009年9月	第40回日本看護学会小児看護（高知）	共同発表者：武内紗千、河上智香、新家一輝、倉橋理香、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、石井京子、藤原千恵子 母親の属性および小児の入院と母親の付き添いによって生じるきょうだいの情緒・行動の問題の程度と、前向きな変化・成長の関係を明らかにすることを目的として、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。母親の年齢や不安の程度、きょうだいの年齢や性別に配慮したきょうだい支援の必要性が示された。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能
21. 小児の入院と母親の付き添いによる、きょうだいの肯定的な変化の程度と属性・背景因子との関連性		2009年9月	第16回日本家族看護学会（岐阜）	共同発表者：倉橋理香、新家一輝、泉美香、山田晃子、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子 小児の入院と母親の付き添いによる、きょうだいの肯定的な変化の程度と、属性・背景因子との関連性を分析するため、小児の入院に終日付き添っている母親を対象に質問紙調査を行った。きょうだいは頑張り過ぎていて、場合によっては肯定的な変化を示す可能性があるため、きょうだいが母親に十分に関わる機会が増えるよう配慮することが重要であると考えられる。 本人担当部分：共同研究につき、抽出・ページ特定不可能
22. 幼児後期の子どもを持つ親のしつけに対する意識と実際の関わり—母親の属性・しつけ体験による認識の差異—		2009年10月	第56回日本小児保健学会（大阪）	共同発表者：山田晃子、新家一輝、泉美香、倉橋理香、山本（松井）菜摘、武内紗千、河上智香、石井京子、藤原千恵子 地域で生活する3～6歳の子どもを持つ母親を対象として、養育態度としつけの必要性および実際の関わり、また様々な背景要因によるそれらの違いを明らかにすることを目的に質問紙調査を行った。母親は愛情豊かに適度な距離を保ちつつ、親としての責任を持って育児に取り組み、基本的な生活習慣よりも社会的な生活習慣を大切にしている傾向が見られた。配偶者や親と相談することで母親が余裕を持ってしつけができ、また親から受けたしつけが自分の子どもに対するしつけに反映されていることが示された。 本人担当部分：父母に対して質問紙調査を実施し、回収後に母親のみの分析を担当。 共同発表者：山本（松井）菜摘、西川麻菜美、加藤多樹郎、藤原千恵子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 高齢初妊婦および高齢初産婦が体験する困りごとに関する支援方略の開発	単	2018年4月	科学研究費補助金（若手研究）平成30年度～平成32年度	高齢初産婦の妊娠期の状況や育児の実態、困りごとを明らかにし、高齢初産婦の特徴を明確にすることにより、高齢初妊婦および高齢初産婦への具体的な支援方略を検討することを目的として、研究を行っている。 助成金：150万円 研究代表者：松井菜摘
2. 高齢初妊婦および高齢初産婦が体験する困りごとに関する支援方略の開発	単	2018年4月	武庫川女子大学科学研究費補助金採択研究助成金	高齢初産婦の妊娠期の状況や育児の実態、困りごとを明らかにし、高齢初産婦の特徴を明確にすることにより、高齢初妊婦および高齢初産婦への具体的な支援方略を検討することを目的として、研究を行っている。 助成金：10万円 研究代表者：松井菜摘
3. 家族介護者への生活習慣病・介護予防のための健康把握とKDBシステムによる支援評価	共	2018年4月	科学研究費補助金（基盤研究C）平成30年度～平成34年度	①在宅介護を担う家族介護者の身体心理社会的健康状態、生活状況及び健康行動の実態を明らかにし、②明らかになった健康や生活の実態より家族介護者への生活習慣病予防・介護予防の健康支援を検討する、③健康や生活の実態に応じた生活習慣病予防・介護予防の健康支援をアウトリーチ活動である家庭訪問により行う、④家庭訪問にて実施した生活習慣の見直しや特定健診受診勧奨、医療受療勧奨の健康支援について、アウトカムを特定健診受診、医療機関受診、生活習慣病の発症の有無等として国保データベースシステム（以下、KDBシステム）にて評価し、⑤家族介護者への支援方略を検討することを目的として研究

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
4. 健康の社会格差の視点を包含した社会的弱者に対する保健師活動支援方略の検討	共	2017年4月	科学研究費補助金(基盤研究C)平成28年度～平成30年度	を行っている。 助成金：330万円 研究代表者：和泉京子 分担研究者：川井多加子、上野昌江、阿曾洋子、岩佐真也、松井菜摘、内藤義彦 保健師の社会的弱者の健康についての認識と社会的弱者への保健活動の必要性についての認識、実際の活動内容の現状を明らかにし、健康の社会格差の視点を包含した保健師の活動支援方略を検討することを目的として、研究を行っている。 助成金：380万円 研究代表者：岩佐真也 分担研究者：和泉京子、大野ゆう子、神原咲子、海原律子、本村純、松井菜摘
5. 低所得未受療国保健診未受診者の家庭訪問での実態把握とKDBシステムによる訪問評価	共	2017年4月	科学研究費補助金(基盤研究C)平成27年度～平成29年度	国保加入者における低所得で未受療者に対し家庭訪問を行い、身体心理社会的健康状態および生活状況、健康行動の実態を明らかにし、訪問による支援の効果をKDBにて評価する。 助成金：370万円 研究代表者 和泉京子 分担研究者：岩佐真也、海原律子、阿曾洋子、上野昌江、内藤義彦、川井太加子、松井菜摘

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年～現在に至る	日本公衆衛生看護学会
2. 2016年～現在に至る	日本地域看護学会
3. 2016年～現在に至る	日本公衆衛生学会
4. 2011年～現在に至る	日本看護研究学会
5. 2009年～現在に至る	日本看護協会